

令和4年度事業報告

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業報告

令和4年度法人目標

- ・ペーパーレス化とBCPの推進
- ・WITHコロナに対応した法人運営

次年度への考察

ペーパーレス化への取り組みとして、前年度より導入した「LINEWORKS（ラインワークス）」が浸透してきた。法人全体への情報の集約・共有化で、紙を使わずに行えるメリットを職員が感じ始めている。次年度以降、更なる活用を進めていきたい。

BCPについては、事業所間で取り組みに差が出ている。先行している事業所の取り組みを共有化し、法人全体のレベルを底上げしたい。

WITH コロナに対応した法人運営のかなめとして、災害対策部会・感染症対策部会・虐待防止部会、以上3部会を設置。各部会の取り組みを、11月に行った法人全体会議で全職員で学んだ。次年度は、各部会メンバーを拡大し、さらに進めて行くようにする。

○理事会

- ・令和4年6月4日 10:00~11:30（山武青い鳥工房）
議 題：令和3年度事業報告案について
令和3年度会計決算案について
監事監査報告
定時評議員会の開催について
役員等賠償責任保険契約締結について
国債の購入について
諸規定の改定について
報 告：理事長の専決業務報告について
- ・令和5年3月28日 10:30~13:00（サンライズ九十九里）
議 題：令和4年度補正予算（案）
令和5年度事業計画（案）
人事について
令和5年度会計予算（案）
給与規程の変更について
評議員会の開催について
諸規定の改正について
報 告：カサ・ロサーダ2番館改修工事業者選定について

山武青い鳥工房エアコン更新工事業者選定について

○評議員会

・令和4年6月21日 15:00~16:00 (中部コミュニティーセンター)

議 題：令和3年度事業報告案について

令和3年度決算書類及び財産目録の承認について

監事監査報告

諸規定の改定について

○職員構成 (令和5年4月1日現在)

山武みどり学園

	正職員	非常勤職員	
次長(施設長)	1	0	社会福祉士・サービス管理責任者
主任	4	0	社会福祉士・保育士・介護支援専門員・精神保健福祉士
支援員	16	19	介護福祉士・保育士
事務員	1	1	
看護師	1	1	准看護師
栄養士	0	1	管理栄養士
調理員	3	4	調理師
合計	26	26	

山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

	正職員	非常勤職員	
統括施設長	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
課長(施設長)	1	0	サービス管理責任者
係長	1	0	介護福祉士
主任	1	0	
支援員	2	19	介護福祉士・保育士
事務員	2	2	
看護師	0	5	正看護師・准看護師
調理員	1	4	
合計	9	30	

カサ・ロサーダ

	正職員	非常勤職員	
課長(施設長)	1	0	介護福祉士
支援員	1	5	介護福祉士
看護師	0	1	正看護師
合計	2	6	

翡翠の宿一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	2	介護福祉士
合計	0	2	

すえひろ工房やまぶき

	正職員	非常勤職員	
課長(施設長)	1	0	社会福祉士・サービス管理責任者
支援員	2	7	介護福祉士・保育士
看護師	0	1	
合計	3	8	

ことぶき庵一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	1	
合計	0	1	

かきつばた

	正職員	非常勤職員	
次長	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
課長(施設長)	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
介護職	2	9	介護福祉士
看護師	1	2	保健師・正看護師
合計	5	11	

ほほえみの里 かきつばた

	正職員	非常勤職員	
主任(施設長)	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
介護職	7	6	介護福祉士
合計	8	6	

居宅介護支援事業所かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	主任介護支援専門員・介護福祉士
介護支援専門 兼			主任介護支援専門員・介護福祉士・
相談支援専門員	0	1	相談支援専門員
相談支援専門員	1	1	相談支援専門員
合計	2	2	

※正職員 55名 非常勤職員 92名 合計 147名

○法人事務局

本年度事業の重点項目

法人に先駆けて事務局にてテレワークのルール作り、デジタル化とペーパーレス化を推進させる。

課題である人材確保については、新卒採用・中途採用の強化をさらに打ち出す。ホームページ、パンフレットのリニューアルで、広告やホームページ・SNS等で積極的に情報発信して、翡翠会のブランド力を強める。加えて1年目の新卒職員に対し、人材定着を目指す目的としたメンター制度を導入し、育成に力を入れ、確保と定着を両立させる。また、コロナ禍で行われていなかった集合研修を少しずつ再開し、職員間の交流の場を確保する。

新設かきつばたの立ち上げなどスムーズな運営ができる様バックアップする。具体的には、利用者が増加してきた土曜日・祝日についても、昼食の配食を行える体制を作る。

子ども食堂については、かきつばたから法人全体の取り組みへと進化させる。支援対象者も子どもだけでなく単身世帯高齢者へ広げ、「地域食堂」とする。

新型コロナウイルス感染症への備えとして、備品購入の確保に努める。

次年度への考察

法人事務局のデジタル化・ペーパーレス化については、まだ進展しておらず、業務の属人化から脱却できていない。年度末に2名の事務職員が退職となったが、これを契機とし、業務の効率化・共有化を更に進めて行く。

令和4年度は新卒3名、第二新卒1名が入職し、そのうち新卒1名が退職となった。昨年度より導入したメンター制度は、一定の効果があったと思われるが、まだ改善の余地があり、今年度さらに練り直していく必要がある。研修については、およそ2年ぶりに職員全体会議を開催できた。各事業所の取り組みを動画などで発表する新たな取り組みを行った。

新設かきつばたの支援として、土曜日・祝日の配食を山武青い鳥工房で行う体制を確立した。今後調理員も不足していくことが予想されるため、本会の「給食センター」として、山武青い鳥工房の役割は益々大きくなると思われる。

子ども食堂は「ひすいかい子ども食堂」として、法人全体の取り組みとなった。山武青い鳥工房・すえひろ工房やまぶきを中心に、法人理念「地域と共に生きる」を実現するため、事業所を超えた協力体制が今後も必要である。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員50名）

- ・施設入所支援（定員40名）
- ・短期入所（定員8名）

利用者状況

【施設入所支援】

平均年齢：全体47.9歳（男性46.5歳 女性49.3歳）

最高齢：70歳

最年少：31歳

障害支援区分（平均 5.7）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	5	22	27
女性	0	0	0	0	4	9	13
合計	0	0	0	0	9	31	40

利用稼働率

施設入所支援 98.5%

生活介護 92.2%

短期入所 79.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	季節を感じる	グループ外出（尼ヶ台総合公園）
5月	季節を感じる	ゴールデンウィークレクリエーション
6月	施設行事 社会経験	食事会 レクリエーション 選択食（醤油ラーメン&カレーライス）
7月	季節を感じる	七夕レクリエーション
8月	季節を感じる	お盆レクリエーション
9月	施設行事	秋祭祭
10月	季節を感じる	ハロウィン
11月	季節を感じる	グループ外食会
12月	施設行事	クリスマス会
1月	季節を感じる	年末年始レク
2月	社会体験 季節を感じる 季節を感じる	選択食（天ぷらそば&目玉焼きハンバーグ） 節分 バレンタイン
3月	スポーツ大会	グラウンドボール大会

本年度事業の重点項目

- ・利用者様の安心・安全を向上させるため、人権尊重と虐待防止の徹底を行ないます。そのために、外部研修に参加・支援課会議にて虐待等に対する意識を

更に深め、虐待防止の徹底を図ります。

- ・コロナ禍でも楽しんで取り組むことが出来る活動の場の提供や環境整備を実施し、やりがいや充実した生活、楽しんで活動が出来るよう実行します。
- ・新型コロナウイルスの感染が拡大しても、出来る限り利用継続できる仕組みづくりを行います。
- ・生活介護事業については、入所利用者はもちろん通所利用者にもやりがいを感じてもらえるような日中活動を検討し、新たな顧客獲得に努めます。
- ・職員の定着にも重点を置き、職員育成・業務内容や時間の見直しを適宜行います。
- ・今後も有効な ICT 技術を積極的に導入し利用者様の安心・安全の向上と業務の負担軽減を実施していきます。
- ・災害時には福祉避難所として地域の方の受け入れ先として地域貢献出来る様に災害時への備えを行っていきます。
- ・園所有の車両について経年劣化が見られる為、新しい車両の購入を行ないません。
- ・施設設備が経年劣化してきている為、随時補修、改修を実施します。利用者様の生活しやすい環境の整備を行い利用者様の QOL 維持向上に努めます。

次年度への考察

- ・虐待防止や権利擁護に関する外部研修に参加した職員は、支援課会議等の場で研修報告を行い、他の職員へ周知することで、事業所全体として一層の意識向上を目指します。
- ・新型コロナウイルス等の感染症対策を継続しながら、利用者様が外出する機会や行事を徐々に増やし、積極的な社会参加を目指します。
- ・新任職員のフォローをメンター担当職員だけではなく、事業所全体で行う他、ICT 技術を活用しながら更なる業務負担軽減に取り組み、省労力、省コストに繋がる機器の導入を検討する。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員 30 名）

利用者状況

平均年齢：全体 歳（男性 45.6 歳 女性 42.3 歳）

最高齢： 72 歳

最年少： 18 歳

障害支援区分（平均 4.9）

区分	1 (無)	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	12	8	8	28
女性	0	0	1	5	4	8	18
合計	0	0	1	17	12	16	46

利用稼働率

生活介護 85.8%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	ドライブ
5月	レク	ドライブ
6月	レク	ドライブ
7月	施設行事	納涼祭
8月	レク	ドライブ
9月	社会参加	ドライブ
10月	レク	ドライブ
11月	レク	ドライブ
12月	施設行事	クリスマス会
1月	レク	初詣
2月	レク	節分
3月	レク	ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・感染症対策（特にコロナウイルス対応）を強化する。
- ・新型コロナウイルスの感染が拡大しても、出来る限り利用継続できる仕組みづくりを行う。
- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。
- ・利用者様のニーズも多様になってきているため、個別の活動メニューを再検討するとともに、受注作業も継続して実施する。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながる働きかけをする。
- ・子ども食堂の運営に協力する。

次年度への考察

障害者虐待防止法についての理解を深めるとともに、ヒヤリハット報告書が提出しやすい環境を作り、利用者様の特性に対して適切な対応が取れるように情報共有を図る。

特別支援学校、放課後等デイサービスなどと情報共有を図り、ご家族、ご本人のニーズに合わせたサービスおよび、サービス提供時間を検討し利用につながるような体制を整えていく。また、受注作業も継続して行っており、活動メニューの充実を図る。

福祉系大学、専門学校の実習から就職に繋がった学生もいるため、引き続き実習等を積極的に受け入れていく。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

利用者状況

平均年齢：全体 13.2 歳（男性 10.8 歳 女性 15.6 歳）

最高齢：18 歳

最年少：8 歳

個別サポート該当 I 該当区分

区分	該当	非該当	合計
男性	2	3	5
女性	3	2	5
合計	5	5	10

利用稼働率

放課後等デイサービス 45.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	誕生会
5月	レク	誕生会・ドライブ
6月	レク	誕生会
7月	レク	納涼祭
8月	レク	ドライブ
9月	レク	誕生会
10月	レク	誕生会
11月	レク	誕生会
12月	レク	クリスマス会
1月	レク	誕生会
2月	レク	節分
3月	レク	誕生会

本年度事業の重点項目

- ・感染症対策（特にコロナウイルス対応）を強化する。
- ・新型コロナウイルスの感染が拡大しても、出来る限り利用継続できる仕組みづくりを行う。
- ・子ども食堂の運営に協力して広報活動に努め、新規利用児の確保につなげる。
- ・療育活動メニューの充実。
- ・学校等関係機関との連携の強化。

次年度への考察

新規利用者の獲得ができていない理由の一つとして、卒業後、生活介護に移行した際に帰宅時間が早くなってしまうことがあげられるため、青い鳥工房と連携を図り、サービス提供時間の延長を検討し、新規利用者の獲得を図る。

感染症対策は継続しながら、活動メニューの充実を図っていく。また、外出等のイベントも企画し、社会経験等の機会を設ける。

保護者や学校など関係機関との連携を図る。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 歳（男性 63.3 歳 女性 73.7 歳）

最高齢：82 歳

最年少：57 歳

障害支援区分（平均 4.5）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	2	1	0	3
女性	0	0	0	1	2	0	3
合計	0	0	0	3	3	0	6

利用稼働率

共同生活介護 100%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月		
5 月		
6 月		
7 月		
8 月		

9月		
10月		
11月		
12月	クリスマス会	ケーキを買ってクリスマスをお祝い
1月	年末年始	おせち料理、テイクアウトメニューなどで新年をお祝い
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・マスクの着用と手洗い等のコロナ対策をしっかりと行う。
- ・利用差様にストレスや不満がある際は話しを聞き、早期に解決を図る。
- ・レクリエーション活動等無理のない室内運動を行うことで、運動機能の低下を防ぐ。
- ・かきつばた移転後、(仮称)第2カサ・ロサーダの開設に向けて準備を進める。

次年度への考察

- ・カサ・ロサーダ 2 番館を開設し、利用者様の引っ越しや新しい入居者様を迎えている。新しい職員も入ってくる為、利用者様にも負担になるがお互いに慣れつつ、利用者様の生活を支えてく。
- ・コロナ禍の影響も徐々に軽減されつつあるため、2棟体制になり難しい部分はあるが、ドライブなどの外出、行事などの企画も再開していきたい。
- ・相談支援事業と連携しつつ、新しい入居者様の受け入れができるようにしていく。空床型の短期入所の指定をすすめ、ショート利用からグループホームの生活に慣れていただき、入居の検討をしていただけるような体制づくり。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 41.3 歳（男性 41.3 歳）

最高齢： 61 歳

最年少： 24 歳

障害支援区分（平均 4.8）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	4	1	3	8
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	4	1	3	8

利用稼働率

短期入所 61.4%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	季節行事	クリスマス会
1月		
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・新規利用者の獲得
- ・複数パート職員が夜勤業務に入り、正職員の夜勤が少ないため、支援や業務の統一や情報共有、連携を図る。
- ・定期的にイベントを開催し、利用者様の気分転換、安定を図る。

次年度への考察

- ・前年度後半から利用率は回復して来ているが、まだ空きがある日もあるため、スポットで利用できる新規利用者様を獲得する。
- ・人員不足等の状況が改善次第、一休を担当する職員の会議を行い、支援の統一や更なる業務改善に向けた情報共有を図る必要がある。
- ・一休だけの行事が少ないため、利用者様の楽しみに繋がるようなイベントや行事を積極的に企画していく。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

利用者状況

平均年齢：全体 36 歳（男性 36.6 歳 女性 35.4 歳）

最高齢 ： 66 歳

最年少 ： 18 歳

障害支援区分（平均 4.5）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	7	6	3	17
女性	0	1	0	8	2	3	14
合計	0	1	1	15	8	6	31

利用稼働率

生活介護 71.0 %

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	施設行事	クリスマス会
1月		
2月	レク	節分豆まき、クリスマス会特別賞外出
3月		

本年度事業の重点項目

- ・地域の中や法人内での事業所としての役割や特色を意識し、通所して下さる方に快適に過ごしてもらえるようにしていく。
- ・ことぶき庵一休との連携を図り、災害などの緊急時にヒト・モノが支援し合えるようにしていく。また、大網エリアに応援等が必要になった場合の事業所としての動きを想定しておく。
- ・現在導入している支援請求システムをしっかりと活用し、業務の効率化を図る。
- ・新型コロナウイルスの感染が拡大しても、出来る限り利用継続できる仕組みづくりを行う。
- ・子ども食堂の運営に協力する。

次年度への考察

・特色である内職作業中心の活動を大切にしつつも、作業活動だけに追われてしまっていてそれ以外の支援が疎かになる恐れがあった為、作業量の見直し等を行い、利用者様の気持ちなどが見落とされないよう配慮している。しかしながら、

働いて工賃を得るということを第一目標にしている方もいらっしゃる為、今後はそのバランスについて検討する必要もあると思われる。

- ・ことぶき庵一休の利用者様が感染して隔離対応が必要になった時にすえひろ工房やまぶきの職員が日中支援に入ったり、山武みどり学園クラスター発生時に応援勤務に入るなど、緊急時の対応はできていたように感じる。しかし、今後もどのような事態が起こるか分からない為、しっかりと対応できるよう備えていきたい。

- ・支援請求システムについては、今のところ問題なく活用できている為、引き続き利用させていただき、業務効率を上げていきたい。

- ・ひすいかい子ども食堂を2回担当させていただき、ボランティアの皆様のご協力などを受けながら無事に開催する事が出来た。令和5年度も受け持ちが決まった為、滞りなく実施できるよう努めていきたい。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（定員5名）

利用者状況

平均年齢：全体 38.5 歳（男性 47.2 歳 女性 35.9 歳）

最高齢：61 歳

最年少：20 歳

障害支援区分（平均 4.3）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	3	1	0	5
女性	0	2	1	6	5	3	17
合計	0	2	2	9	6	3	22

利用稼働率

短期入所 54.2 %

年間行事報告

月	目的	内容
4月	余暇	そうさチューリップ祭りなど
5月	余暇	幕張メッセどきどきフリーマーケットなど
6月	余暇	道の駅多古あじさい館、蓮沼海浜公園など
7月	余暇	坂田池公園、さんぶの森公園など
8月	余暇	ドライブ
9月	余暇	風和里しばやまなど
10月	余暇	ひこうきの丘など

11月	余暇	みのりの郷東金など
12月	余暇	ときがね湖など
1月	余暇	海の駅九十九里など
2月	余暇	つるし雛鑑賞、坂田城跡天空の梅まつりなど
3月	余暇	八鶴湖など

本年度事業の重点項目

- ・緊急性のあるケースは別として、将来に向けて宿泊経験を積んでおきたいという方などについては、なるべく利用目的に合わせた支援の実現を目指す。
- ・法人内にある短期入所事業所と連携を取り、事業所の設備・周辺環境等を考慮しながら、その方に合った支援を検討する。
- ・すえひろ工房やまぶきとの連携を図り、緊急時にもなるべく事業がストップしなくても済むような動きを想定しておく。
- ・現在導入している支援請求システムをしっかりと活用し、業務の効率化を図る。
- ・新設事業所として積極的にPRを行い、新規利用者の獲得を目指す。

次年度への考察

- ・定期的に宿泊している利用者様については、リネンの取り付けに拒否的だった方と一緒に何度も実施したり、洗濯機の使用に不安を感じている方に操作方法を教える確認などの対応をすることで少しずつ形になってきていることもある為、それぞれの方が将来を見据えて身につけたいことや出来る事を共に考えながら支援していきたい。
- ・利用者様の行き来について、法人内の短期入所事業所と検討することは無かったが、事業所の持っている設備や環境において出来る事を考えて対応していきたい。
- ・新型コロナウイルスに感染した利用者様の隔離対応が発生した際、すえひろ工房やまぶきの職員と連携を取って対応できた為、今後も緊急時の動きを想定しておきたい。
- ・支援請求システムは業務効率化の為、引き続き活用していきたい。
- ・年度末に退職職員が出てしまい、利用者様にご迷惑をお掛けしている為、早く体制を整えて色々な方に利用していただけるようにしたい。

〇かきつばた

実施事業

- ・小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員 29名 通いサービス利用定員 18名
宿泊サービス利用定員 7名

- ・共生型生活介護 現在利用者 3名
- ・共生型短期入所 現在利用者 3名

利用者状況

平均年齢：全体 83.7 歳（男性 80.5 歳 女性 85.2 歳）

最高齢： 98 歳

最年少： 18 歳

介護度（平均 1.8 ）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	1	0	3	3	2	0	0	9
女性	0	7	3	3	5	1	1	20
合計	1	7	6	6	7	1	1	29

利用稼働率

登録定員 95.4% ※小規模多機能という介護サービスは、利用者の状況に合わせてサービスを提供しているため、登録定員率で表記致します。

訪問 8,478 回（年間総数）

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	誕生日を共に祝う	お誕生会
5 月	〃	お誕生会
6 月	〃	お誕生会
7 月	お祭り気分を味わう他	納涼会
8 月	誕生日を共に祝う	お誕生会
9 月	敬老のお祝い他	敬老会・お誕生会
10 月	紅葉狩り他	近隣ドライブ・お誕生会
11 月	誕生日を共に祝う	お誕生会
12 月	クリスマス祝う他	クリスマス会・お誕生会
1 月	お正月気分を味わう他	元日お正月料理堪能・お誕生会
2 月	季節行事他	節分 豆まき・お誕生会
3 月	季節行事他	ひな祭り・お誕生会

本年度事業の重点項目

- ・昨年度移転し、登録定員数が 29 名になった。これまでの積み上げてきた事業所への信頼を得て、早々に登録定員を達することができた。これからも地域の方々に選ばれる事業所として登録定員の保持に努める。
- ・利用者様の状態把握に努め、変化に応じて家族や他事業所と連携し、本人の意向に基づくサービスを提供していく。

- ・コロナ禍で中断していたボランティアの受け入れや近隣住民との交流を再開し、地域と一体化した事業所を目指す。
- ・毎月の職員会議や外部研修に参加することで、職員全体で共に考え学びあい、支援の質の向上を図る。
- ・同法人内の介護部門では、ほほえみの里かきつばたや介護支援事業所かきつばたとの連携、障害部門では、共生型のサービスの強みを生かし、地域の協力を得ながら切れ目のないサービス提供ができるように努める。
- ・新型コロナウイルスや他の感染症の最新情報の理解を深め、感染を確認した場合は、早期に関係各所と連携し感染拡大を防止する。

次年度への考察

- ・法人内事業所との連携をスムーズにし、常に情報共有を図り相談・助言・支援の効率化を目指す。
- ・地域住民と一体となったイベントを提案し、福祉サービスを身近に感じて頂き、緊急時には助け合い共存できる施設を目指す。
- ・職員一人一人が自身の役割を果たし、向上心や生きがいを感じて勤務することで事業所全体のスキルアップを目指す。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護事業所
定員 18 名

利用者状況

平均年齢：全体 83.6 歳（男性 82.3 歳 女性 85 歳）

最高齢： 101 歳

最年少： 67 歳

介護度（平均 2.6）

	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	2	1	2	3	4	5	
男性	0	3	1	2	2	0	8
女性	0	2	1	2	3	0	8
合計	0	5	2	4	5	0	16

利用稼働率

共同生活介護

1階ユニット 90.4%

2階ユニット 93.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	季節行事	お花見弁当
	気分転換	ドライブ(瀬又方面)
5月	施設活動	園芸・書道
	訓練	避難訓練(火災想定)
6月	気分転換	紫陽花見学ドライブ
	収穫	きゅうり・じゃがいも・枝豆収穫
	誕生日お祝い	誕生会
7月	季節行事	七夕祭り
	誕生日お祝い	誕生会
	予防接種	コロナワクチン接種 4 回目
	訓練	避難訓練(水害想定)
8月	季節行事	納涼会
	誕生日お祝い	誕生会
9月	季節行事	敬老会
	誕生日お祝い	誕生会
	収穫	スイカ・きぬさや収穫
10月	誕生日お祝い	誕生会
11月	季節行事	芋煮会
	誕生日お祝い	誕生会
	予防接種	インフルエンザワクチン接種
	気分転換	紅葉ドライブ
12月	季節行事	クリスマス会
	収穫	じゃがいも収穫
	誕生日お祝い	誕生会
	予防接種	コロナウイルスワクチン 5 回目
1月	季節行事	施設内初詣
	季節行事	元旦行事
	誕生日お祝い	誕生会
2月	季節行事	節分
	気分転換	ドライブ(サンライズ九十九里)
	誕生日お祝い	誕生会
3月	季節行事	ひな祭り弁当
	誕生日お祝い	誕生会
	気分転換	ドライブ(白子方面)

本年度事業の重点項目

- ・小規模多機能や居宅介護支援など法人事業所と連携を図り、短期利用や入居へ結び付けていく。
- ・ICT 計画を実現させるため、ケア記録アプリを活用し業務の効率化を進めて、入居者様のケアへ還元する。
- ・BCP 計画を実現するために、自家発電設備や福祉避難所申請手続きを行い、地域と共にと災害に強い施設を進めていく。避難訓練・地震・浸水避難訓練を実施して、災害に強い施設を目指す。
- ・介護ロボット申請受理を受けて、リフト式の入浴設備が設置される。入居者様の安全・快適な入浴が行えると共に職員の負担軽減が見込まれる。
- ・短期利用の PR を積極的に行い、空室が出た場合にもスムーズな入居につながるようにする。
- ・入居者様が安心・安全な生活を過ごして頂くために、ユニット会議・職員会議・ケア会議・委員会を活性化して、情報やケアの共有を図る。WEB の研修を活用して、医療（認知症）や介護知識・介護技術の向上を図る。

次年度への考察

- ・職員の人員不足が課題となっている。小多機、居宅かきつばた等の第 3 事業部と密な連携を図ることや情報交換を行い、事業所間での人事交流やヘルプなど、助け合える関係性の構築を引き続き目指していく。
また業務の見直しを行うなど効率的に業務を行えるよう工夫し、新規職員採用も働きかけていく。
- ・短期入所事業に関して、市への短期入所の PR は認知されているが他の居宅介護事業所などには依然 PR 不足があり、認知度は低い。特定の事業所からの問い合わせはあるので体験してもらい、認知度の向上を狙いたい。
- ・来年度から義務化される BCP 計画を完成させ、職員への周知を行う。感染が起こった経験を生かした予防対策。継続した避難訓練の実施。今年度は自家発電設備の申請手続きを進め、感染症や災害に強い施設作りを進める。
- ・ICT の継続した利用の推進。介護記録アプリ・請求アプリを導入、活用することで業務の効率化を更に進め、科学的介護情報システム（LIFE）を行うことが出来るよう進めていく。また医療との連携を進めていく。
- ・入居者様が安心して生活して頂くよう、ユニット会議・職員会議・委員会等、積極的に開催することで情報の共有化を図る。ICT の積極活用を通して、全職員が医療、認知症状、感染症対策、身体拘束廃止の研修を e ラーニングを活用し、専門職としての意識とケアの向上を図る。
- ・令和 5 年 5 月 8 日より新型コロナウイルスが季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行することになった。感染対策は継続していくが、コロナ前

の対応に徐々にシフトしていく。今後は感染症に対する情報収集を行い、外部のボランティアの招へいや外出を増やすなど考えていく。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援 障がい児者 特定相談支援

利用者状況

平均年齢：全体 87 歳（男性 81.4 歳 女性 91 歳）

最高齢： 97 歳

最年少： 68 歳

介護度： 1.94

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	事業 対象者	合計
男性	2	3	3	4	2	1	2	0	17
女性	8	17	23	9	4	3	1	0	65
合計	10	20	26	13	6	4	3	0	82

契約者数 要介護 52 名 要支援 30 名

取り扱い件数 要介護 51 名 要支援 30 名

その他 女性利用者様の平均年齢は令和 3 年度 81 歳であったが 56 歳若年性アルツハイマー型認知症の利用者様が施設入所の為 91 歳と高くなった。

居宅介護稼働率は令和 4 年度後半よりほぼ 100%となっており 新規利用者様の受け入れは施設入所その他で空きが出たタイミングでお受けしている。

本年度事業の重点項目

- ・障がい、介護、共生と多様な事業を展開する本法人の福祉サービスを活用しどのような状況の方の相談にも対応する姿勢を継続する
- ・法人内の介護事業、障がい事業との連携を深めてサービスの活用を推進し、利用者様の生活の質の向上を常に考え支援する。
- ・相談支援事業では利用者様本人だけでなく、家族単位で支える視点で支援する。
- ・山武圏域以外の相談にも出来る限り対応していく。
- ・法人の相談支援の中核事業所として、ケアマネジメントの質の向上に努める。
- ・職員レベルアップの為資格の取得を推進する。
- ・今年度から開設する山武郡市障がい者基幹相談支援センターに協力し、連携を深める。
- ・記録ソフトの導入を検討し、ペーパーレス化に努める。

次年度への考察

・50代、60代の年齢の高い 特定相談利用者様のご家族様も支援が必要なご家庭が増えている。家族単位で支援する視点、姿勢が年々重要にない。
障がい基幹センターの意向により強度行動障害など重度の方の担当相談、介護でも障がいサービスとの併用の方は かきつばたでと担当依頼、相談を増えている。障がい、介護両方の支援相談を行って居る事業所が他になく今後も相談は増えていくと思われる、また要支援認定の利用者様の担当を受ける事業所も少なく 相談、依頼が常にある。担当の空きがあれば 介護、支援にかかわらずお受けする姿勢を継続する。

・九十九里町からの認定調査依頼が毎月ありお受けしている。コロナ延長申請が終了し 通常調査担ったことで調査員不足が深刻であるとのことで、かきつばた 利用者様にも関わってくることであり今後も九十九里だけでなく大網白里市からの依頼等もあればお受けしていく。

・法人内の事業所、包括、基幹、市町村と連携を密に行っていく。

○感染症対策部会

事業の重点項目

・今年度中に BCP 策定し、各事業所ごとに感染症対策マニュアルを作成。周知を行なう。作成後に感染症対策部会が中心となり、法人のマニュアルを作成。緊急時各事業所に応援体制が出来るようにする。

・入所施設でクラスターが発生した場合の応援体制を整える。

・法人内の物資の数を把握し、必要な物を購入。法人の物資を備蓄する場所を決め、緊急時に備える。

・常に感染症の最新情報を取り入れ、3か月に1回の会議を行ない、対応方法の検討会を行なう。

・新型コロナウイルスに備えるだけでなく、他の感染症にも備えるため、研修を開き、啓発活動を行なっていく。

次年度への考察

・厚労省に指示に沿って各施設ごとの BCP を更新しながら、法人全体でどのような連携が図れるか、本部会で検討していく。

・入所施設でのクラスターが発生した場合の応援体制を整えることが出来なかった為、今後、各施設に体験勤務などを行い、緊急時に備える必要がある。

・概ね3か月に1度の会議を今後も行っていく。

・本部会主催の研修会が行えたため、今後も必要な研修会を行っていきたい。

○災害対策部会

事業の重点項目

- ・現在は各事業所で災害時備蓄を行っている為、法人単位で非常食の購入、個数の把握・管理を行い、効率化を図る。
- ・各事業所で火災等の避難訓練を行っているが、地震や風水害等の大きな災害を想定した法人全体の動きは策定されていない為、これらの策定と訓練計画について検討を行う。

次年度への考察

- ・まだBCPの作成が終わっていない事業所もある為、確認し、速やかに作成していただく。変更があった際も速やかに更新する。
- ・災害時の事業所間の連携方法、内容等に関して具体的に決まっていない為、ラインワークス等を活用する方法を提案。また連絡網を作成し、事業所間での連絡方法を考える必要がある。
- ・大規模災害が起きた時の法人全体の動きを考える必要がある。具体的に決まった後はマニュアルを作成する。
- ・法人全体の避難訓練の実施。マニュアル作成。
- ・職員全員にイーケアラボでの防災関連の研修を受講していただく。

○虐待防止部会

事業の重点項目

- ・今年度より義務化される虐待防止と身体拘束等の適正化について、職員に周知を図り、利用者様の人権尊重を徹底する。
- ・外部の研修等に参加し、虐待防止に関する知識を高め、事業所の職員に伝達研修を行い、知識を高める。
- ・WEB研修も活用し、虐待・身体拘束に関する知識を全職員に深めていく。
- ・職員に対し、ストレスチェックを行う。

次年度への考察

- ・虐待者の発生防止、早期発見に加え、虐待者が発生した場合は、再発を確実に防止する為の対策も検討していく。
- ・職員に対する虐待防止の為の研修の内容として、虐待に関する基礎的内容等、適切な知識を普及、啓発し、虐待の防止の徹底を行っていく。
- ・職員教育を組織的に徹底させていく為に、定期的な研修に参加し、受講した研修内容の感想を参加者全てが記録し、責任者に提出していく。

○地域における公益的な取り組み

実施事業

- ・カフェかきつばた（認知症カフェ）
→コロナ禍の為、中止。

実施・参加状況

- ・毎月2回（第2・4木曜日） 11：00～14：00 開催
- ・あんとんねえさ 開催『九十九里地域認知症家族の会』in 大網白里市
→希望者があった時のみ開催。 隔月：13：00～15：00 開催

実施事業

- ・ひすいかい子ども食堂（子ども食堂）

実施・参加状況

- ・年4回 開催 ドライブスルー方式でお弁当配布で開催
（5月22日・11月27日・1月22日・3月26日）
- ・年間参加者 295名
- ・大網ロータリークラブ協賛による資金・食材の提供

次年度への考察

今年度より「子ども食堂かきつばた」から「ひすいかい子ども食堂」と改名し、法人全体の取り組みとして行った。山武青い鳥工房・すえひろ工房やまぶきの職員が中心となったが、お菓子づくりや作業品の販売など、色々な形で職員・利用者様が関わることで、「地域と共に生きる」という法人理念の実現を、多くの職員が実感できる取り組みとなった。大網ロータリークラブや大網白里市等、関係機関との協力も図れている。地域貢献を通じて、本会の取り組みが地域の方々に認知されることは、事業を進める上で大きなプラスとなる。今後出来る形で、継続していくことが大切だと考える。